



☐ 取材依頼    ☒ 募集告知  
☐ 周知依頼    ☐ その他



## 「男女共同参画社会」川柳・俳句作品を募集します！

誰もが暮らしやすい男女共同参画社会の実現をめざすため、作品募集を通じて、誰もが関心の高いテーマについて考え、一人ひとりが様々な考えを持つことに気づき、互いを尊重するきっかけとすることを目的とし、男女共同参画社会川柳・俳句を募集します。

### 1. 募集テーマ 「防災」

- 内容例) ☐ いつもの暮らしの中でできる備え  
☐ 家族で話し合っていること  
☐ 備えていたら安心だなと思うこと  
☐ 地域での防災の取組  
☐ 安全・安心なまちづくりへの願い など

2 応募資格 さぬき市に在住、在勤または在学する者

3 応募点数 1人2点まで（ただし、自作・未発表のものに限る）

4 応募方法 応募する作品に住所・氏名（ふりがな）・連絡先・（希望者はペンネーム）を添えて、応募用紙、官製はがき又は応募フォームから提出

5 応募締切 令和8年3月2日（月）必着

6 応募先 〒769-2195 さぬき市志度5385番地8  
さぬき市市民部人権推進課  
電話087-894-9088 FAX087-894-3000

- 7 その他 ①応募作品は、さぬき市男女共同参画週間パネル展などで展示します。  
②公序良俗に反する場合等、内容によっては展示を見合わせます。  
③応募作品に関する一切の権利は、さぬき市に帰属することとします。なお、応募作品の著作権等に関わる問題が生じた場合は、応募者の責任において処理することとします。

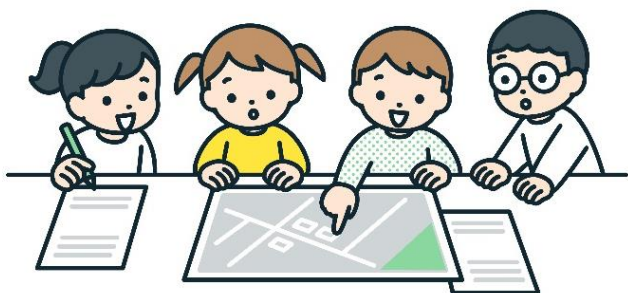


↑今年の作品展示の様子  
（R7. 男女共同参画週間パネル展）

### 【本件に対する問い合わせ先】

さぬき市市民部人権推進課 担当 田村

電話 (087) 894-9088 Email jinkensuishin@city.sanuki.lg.jp



# 男女共同参画社会 川柳・俳句募集!

応募締切

2026年

3月2日

作品テーマ **「防災」**

- ☐ いつもの暮らしの中でできる備え
- ☐ 家族で話し合っていること
- ☐ 備えていれば安心だなと思うこと
- ☐ 地域での防災の取組
- ☐ 安全・安心なまちづくりへの願い など

「男女共同参画」と  
「防災」の関係は  
チラシ裏面をチェック!

**応募資格** さぬき市に在住・在勤・在学の方

**応募点数** 1人2点まで（自作・未発表のものに限ります）

**応募方法** 応募作品・住所・氏名（ふりがな）・連絡先・（希望者はペンネーム）を明記して、郵送・持参または下記応募フォームから応募ください。

（志度図書館・寒川図書館にも応募箱があります）

**申込先** 〒769-2195 住所不要

さぬき市役所「男女共同参画川柳・俳句」係

**その他** 応募作品はパネル展での展示など、啓発に活用します

※応募作品に関する一切の権利は、さぬき市に帰属します

※公序良俗に反する場合等、内容によっては展示を見合わせます

※作品の著作権等に関わる問題が生じた場合は、応募者の責任において処理することとします

＼こちらから！



**【問】**

人権推進課 087-894-9088

**としとし**

**ご応募ください！** ➡

# 「男女共同参画」と「防災」



東日本大震災をはじめとする大規模災害の教訓から、防災や復興のあらゆる場面で「男女共同参画の視点」を取り入れる重要性が見直されました。

## なぜ「男女共同参画」の視点が防災に必要なのか？

災害は誰の身にも起こりうるものです。

しかし、性別・年齢・障がいの有無・意思の疎通をしやすいかどうかなどにより「困りごと」の出やすい場面が異なります。

「男女共同参画の視点」では、そうした違いに配慮しながら、すべての人が安心できるように備えることを重視しています。



災害の影響は  
人によって違うんだ

## 避難所や災害時に起きやすい「困りごと」

授乳できる場所はあるかな？



女性用の下着・生理用品は備えてある？

車いすのまま使えるトイレは？

LGBTQ+の人が安心して過ごせるスペースも大切

実際に災害が起きると、こうした“見えにくい困りごと”が起こりやすくなります。

「性別」「世代」「生活状況」「体の状態」などの違いを考慮しないと、支援や避難所環境で困る人が出てしまいます。

## 男女共同参画の視点で「できること」

### □ 防災について多様な視点で考えよう

→地域の防災を考える場に、女性・若者・高齢者・障がいのある方など、多様な立場の人の声を加えましょう。

### □ 避難所の運営に配慮を

→プライバシーの確保や安心して利用できるトイレなどについて考えましょう。

### □ 日ごろから“話しやすい地域・仲間づくり”を

→ 支え合える関係は、災害発生時だけでなく普段からの備えにもつながります。



## 私たち一人ひとりができること

家族や友人と「もしものとき」を話し合いましょう。

自分の状況（年齢・体の状態・性別・家庭環境）にあった備えか点検し改善しましょう。

地域の避難訓練や防災会議に関心を持って、参加してみましょう。

「困ったかも」「助けてほしいかも」と思うとき、声を上げやすい関係をつくりましょう。



「男女共同参画の視点」は、性別だけでなく、年齢・障害の有無・立場などが違うすべての人が安心して暮らせる社会をつくるための視点です。  
みんなで力を合わせて、「誰一人取り残さない安心のまち」をめざしましょう。